



編集・発行



社会福祉法人
沖縄県社会福祉事業団

〒903-0804 那覇市首里石嶺町4丁目373番地1
TEL.098-884-3173 (代) FAX.098-882-5688

✉ o.fukusi@okinawa-j.jp
🌐 <http://www.okinawa-j.jp/>



絵：具志川厚生園 職員 / 色：特別養護老人ホーム 利用者 幸地良徳 様



年始のあいさつ

事務局長
花城 裕康
はなしろ ひろやす



新年あけましておめでとうございます。社会福祉法人として、皆様に心よりご挨拶申し上げます。本年が皆様にとって健康と幸福に満ちた年となりますようお祈り申し上げます。

昨今の社会福祉情勢については、いくつかの重要な動向や課題があります。例えば、高齢化社会に伴う介護サービスの需要増加に対して、生産年齢人口減少の背景のなかで人材確保と定着は、どの組織にとっても重要な課題です。

さて、前述した社会的な課題を当法人として振り返りますと昨年は、例外なく少子高齢化などの影響を受けております。その状況下で、各拠点施設及び事業所においては、地域の皆様と共に歩み、職員一人ひとりがつながり、支え合う力を実感する一年でした。

令和7年度においても、医療、介護、福祉サービスが連携して福祉を必要とする方を支える仕組みを強化し、住み慣れた地域で安心して暮らせる環境が求められています。

社会的な課題に対して、当法人は更に医療・福祉サービスが持続的に提供できるよう、高齢者の労働参加促進として定年を延長し、引き続き活躍できるようにすること。また、定年後の再雇用制度を充実させることを構築していく所存であり、更には労働人口減少を織り込みつつ、生産性の向上・効率化を図っていきたくと考えております。

最後になりますが、本年も引き続き、私たちは地域のつながりを大切に、福祉向上を皆様と共に目指し、歩んでまいりますので、今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。

事務局主催研修を受講して

権利擁護・虐待防止研修を受講して

6月18日(火) 児童養護施設・保育所・女性自立支援施設の職員を対象とした「権利擁護・虐待防止研修」をオンラインにて開催しました。京都保育福祉専門学院副学院長であります岡本匡弘氏を講師として、権利擁護・虐待防止、他機関との連携や対応の方策についてご講話いただきました。受講者の声を紹介します。



漲水学園
保育士
比嘉 彩陽

ひが あやね
比嘉 彩陽

研修の中で「労働の中には感情労働というものがあり、感情疲労から休まる事が出来ずに疲労が蓄積され、仕事への影響に繋がる」という話がありました。私自身、児童から受けた暴言で家に帰っても休まる事が出来ない状況が続いた為、この話しがイメージしやすくてとても苦しかった時を思い出し、今の私に出来る事は何かあるのかを考えました。同じように暴言を受けてしまう職員が居れば、思いやりの姿勢をもって悩みに寄り添い少しでも負担を軽減して欲しいと感じました。

また、児童支援をする際「伝える」「教える」と思い関わってきましたが、「伝える」「コミュニケーションを大切に」と学び、一方的な「伝える」ではなく「伝える」という事を大切にして日々考え関わるようにしました。今後とも児童だけではなく、職員同士や私自身の関わる方々に対しても「伝える」言葉を意識して信頼関係を築き、穏やかな生活が出来るよう虐待防止に繋げていこうと思います。



事故防止対策研修を受講して

7月10日(水)に「事故防止対策研修」を開催しました。京都保育福祉専門学院副学院長であります岡本匡弘氏を講師として、事故報告書の書き方及び事故防止マニュアルの重要性についてご講話いただきました。受講者の声を紹介します。



いしみね かつひろ
介護員
真川 直樹

まがわ なおき
真川 直樹

この研修では、事故報告書を書く目的を再確認し、正しい事故報告書を作成する事が職員・事業所・利用者を守る事に繋がる事を学びました。(法律違反による指定取り消し等)

ヒヤリハット報告書の分析・対策では、食事介助を事例として3つのリスク要因の視点がありました。①利用者本人のリスク。②支援者側に潜むリスク。③ケアが起る環境に潜むリスク。以上の3つの視点を元に、食事中のケアの方法から対策を考える事をポイントとしています。3つのパラメータが難しいと感じました。個別支援の方法には、正解はないかも知れませんが、多職種間で最善の選択ができるようにしたいと思いました。

マニュアルは改善と更新をしていく事で、職員の創意工夫や新しいアイデアを引出す事に繋がるので、マニュアルを見直す大切さを忘れないようにしたいと思いました。

全体的に実例を交え、事実の観察と多面的な判断の重要性を考えさせられました。伝える事と伝わる事の違いが多い事にも注意が必要だと考えさせられました。また、グループワークでは、個々の捉え方の差を実感する事ができ、様々な視点を受け入れる事の大切さを感じました。



感染対策研修を受講して

8月21日(水)に「感染症対策研修」を開催しました。昨年に引き続き、沖縄県看護協会感染管理認定看護師であります伊波千恵子氏を講師として、日々の観察・記録の書き方及びBCPについてご講話いただきました。



宮古厚生園
看護師
吉濱 結子

よしほま ゆいこ
吉濱 結子

新型コロナウイルス対策において、効果的かつ負担の少ない「医療・介護現場における感染対策に向けた変更の方向性を学べたことは非常に有意義であった。ゾーン設置による対応では、病棟全体のゾーニングは基本的には不要とのこと、これまではゾーニングを実施していたので今後は再検討する必要があると思った。また、コロナウイルスに感染した利用者にサージカルマスクを着用してもらおうのも良いとのことだったので今後は検討したいと思う。

標準予防策の講義では、基本的な内容を改めて振り返る良い機会になった。施設では標準予防策が浸透していなかったため、復命研修で手洗い方法、ガウンの着脱方法等標準予防策について職員の皆さんに実践してもらった。今後も標準予防策が職員一人一人にしっかりと定着できるように取り組んでいきたい。

また、BCPについては初めての講義であったため非常に勉強になった。実際の業務内容及び人員配置に合わせて、多職種で連携しながら訓練、見直等を行い運用していきたい。

いずれの研修内容も臨床に即しており、とても実用的な研修であったため今後の感染症予防対策に活かしていきたいと思います。



WJU経営リーダー養成講座を受講して

具志川厚生園

園長 福地 政幸



「介護業界に大きな変革が起きますよ、事業団以外の施設はもう準備してスタートラインに立ってますよ？既にスタート（事業展開）しているところもある。具志川厚生園はこのままでいいんですか？」。

10年ほど前になると思う。面談で当時の園長に危機意識をぶつけ噛みついた事を覚えている。それがきっかけでWJU主催の研修へ参加させていただいた。当時は中核的職員育成研修と題され、社会保障と税の一体改革を皮切りに地域包括ケアシステムが掲げられ、適応できる法人は生き残り、適応出来なければ吸収・統合・合併・淘汰される時代が来ると学んだ。地域への事業展開の必要性を感じていたが、介護・福祉にそんな時代が来るとはにわかには信じがたかった。そして今、実際にその時代が来ている、にもかかわらず私たちは国の施策で求められる事業展開への準備が出来ていない。そこで今年の6月から存続と生き残りをかけて、経営改革のためのリーダー養成塾

“（以下研修と表記）が始まり、受講する機会をいただいた。

求められていることは2040年を見据えた事業構成モデル。介護では地域包括ケアシステムの域を超え、予防事業への取組と在宅事業の複合化、地域・行政機関との連携、保険外事業への展開が必要になってくる。もはや介護だけでは成り立たない今、直面していることを研修では繰り返さず学んでいる。並行して施設単位で立て替え・大規模修繕という大きな課題もある。何より、人材確保についてはどの施設も人件費・稼働率と密接に連動していることから矛盾を感じるような停滞が起こっていると感じる。

しかし見通しが暗い訳ではない。2040年のピークに向けて高齢者は増え続けるため需要はある。取りこぼしをなくし利益（稼働率）を上げ、人材を確保・教育し、実用的な人事考課を導入する。そしてICT化とロボットを導入、外国人の受入れ等、とにかく「実践」に移す必要性を強く感じている。

本研修を通して次世代を担う職員へ法人の将来と展望を示し、安心して長く働く事ができる夢のある法人・施設作りを取組んでいきたい。

管理者・次世代役職者を期待する職員への研修（障害分野）を受講して

都屋の里

園長 宮城 尚



この研修は本年度、開始した障害分専門コンサル（赤松氏）による研修です。受講者は各職種から管理課長・サービス管理責任者・出納員・施設長の計4名にて、8月より開始。現在4回目の受講を終え、現時点での気付いた点、変わった事等を、お伝えしたいと思います。

まず受講前に各職種の目的として、管理課長・加算要件や報酬改定の理解を深め、必要な人員配置を図る。サービス管理責任者・現加算から更に取得可能な加算を模索、新規入所者のコントロール、介護員のスキルアップ。出納員・報酬内容や加算要件を理解し障害分野専門会計として深く施設を把握する。施設長・将来を見越した経営方針や改善策を模索。最終的に「みんなで作る決断する」事が必要であると思いがかりました。

受講を進める中で、研修参加者全員が、強く当事者意識を持ち、現在の都屋の里の状況を把握どうしたらよいか、意見としてしっかり持っている事を知りました。その内容を赤松氏が、具体的かつ分かり易く根拠・数字で示して頂き、解決に向け何をすべきかを導き出し共有する。それが大きな力となる事を学びました。

研修受講後、振り返りミーティングで「あれはどうなの？」「こうしたら良いのでは？」「次回、赤松さんに聞いてみよう！」等、研修に対し前向きに取り組むようになっています。また今、学んでいる事を他職員へ伝える事が重要だと意見一致し、どう伝えていくかを、みんな考えています。

まだ結果は出ていませんが、「健全な経営は利用者、職員にとって良い施設・職場となる」を目標に障害専門コンサル赤松氏と二人三脚で実現出来るよう、みんなで行動していきます。

皆で笑えるように・・・





第57回全国社会福祉事業団大会に参加して

事務局 企画課

事務員 嶺井 竜之介
みねい りゅうのすけ

令和6年10月17日(木)、18日(金)に秋田県にて開催された「第57回全国社会福祉事業団大会」に参加しました。

「つながり・支える地域共生社会へ」を大会テーマに、基調講演や特別講演、他事業団の実践研究、分科会がありました。基調講演及び特別講演、事業団の実践研修については、社会福祉法人としての役割、関わり方について改めて考える機会となりました。現在、福祉も働き手の不足等から、業務の効率化による生産性の向上が必要となっています。その中で、分科会のICTの導入による業務効率化、利用者支援に関連するプロセスや効果については、新しい知識を身につけること

ができました。

また、全国の参加者とも交流する機会があり、各法人・施設として取り組んでいること、各職種による業務内容等を聞くことで、情報交換・共感することが多く、当法人・施設としても取り組んでみたいと考え方を広げることができ、非常に有意義な大会でした。

今大会に参加し学んだことを実際の業務に活かし、さらなる成長につなげていきたいと考えています。

また、次年度の「第58回全国社会福祉事業団大会」は沖縄県開催となっております。当法人が大会担当事業団として開催に携わることから、参加される皆様にとつて充実した大会となるよう現在準備を進めています。皆様と沖縄でお会いできることを楽しみにしています。



栄養士のおすすめレシピ

紅芋と黄金芋のガレット

材料

- 紅芋 125g
- 黄金芋又はさつま芋 125g
- 片栗粉 大2
- オリーブ油(サラダ油) 大2
- ピザ用チーズ 50g
- バター 15g
- はちみつ・メープルシロップなど お好みで

作り方

1. 紅芋・黄金芋は皮をむき、千切りにして片栗粉とオリーブ油を混ぜ合わせる。
2. 熱したフライパンに油をしき、①を半分入れ広げて、フライ返しで押し固めたらチーズをかけ残りの②も入れて、中火で焼く。
3. フライ返しで押しつけながら、片面がパリパリになるまで焼く。
4. ③を裏返してさらにパリパリになるまで焼いたら、バターを垂らして、お好みではちみつやメープルシロップをかける。



※紅芋はヤマノイモ科の芋で、ヤマノイモや長芋の仲間です。赤紫色の色はアントシアニンによるもので、抗酸化作用が高く、動脈硬化やコレステロールの抑制に効果があります。又、ビタミンやミネラル食物繊維が豊富です。黄金芋はさつま芋の仲間、鮮やかなオレンジ色が特徴です。紅芋と同様の栄養素が含まれており、栄養価の高い食材です。

具志川厚生園

あらさき えりこ
管理栄養士 新崎 えり子

事業所紹介

沖縄療育園 ピノキオ (生活介護)

サービスマネジメント責任者

城間 愛



沖縄療育園、通園ピノキオは、主に重症心身障害児者を対象とした通所事業所です。1日定員5名の利用者様を受け入れており、少人数でアットホームな雰囲気の中、療育活動や入浴・排泄介助等のケアを提供しています。

ピノキオの1日は毎朝、利用者様をお迎えするところから始まり、各家庭で「いつてらっしゅい」と明るく送り出していたり、時には、わたしたち職員も元気をもらっている実感を感じています。

そんな通園ピノキオでの様々な療育活動では、季節感を意識し五感に訴えかける活動を取り入れていきます。見る、聴く、触る、味わうこと、触った感触や香りを楽しんだり、といった感じです。

最近では「ピノキオカフェ」を開店。利用者リクエストの音楽を聴きながら紅茶とお茶菓子で楽しい午後ひと時を過ごしていただきました。時にはコーヒーマシを豆から挽いてコーヒーマシのアロマを楽しみ、夏はコーヒーマシのアロマを提供したこともありました。

アロマオイルでのマッサージではスキンシップを図りながらゆったりとリラクセス。調理実習では、ポーポーやパフェを作りました。飲食できない利用者様は、作る過程と香りを楽しみ口に触れる程度の味見を体験することも

あります。他にも沖縄の行事を取り入れた活動や台風の体験も活動に取り入れ、通園ならではの活動を行っています。

みんなで外出にも行きましたよ。今回はイーアス沖縄豊崎のDMM水族館へ出かけました。朝からお弁当を持参し、イーアス内を散策して、水族館を見学しました。ペンギンやなまけもの、中でもくらげの水槽では利用者様も職員も幻想的な空間に癒されました。水族館内のカフェで水槽を眺めながら優雅なカフェタイムも満喫し、利用者様の満足そうな様子も見られました。

今度は何をしようかな？利用者様が何がいいか尋ねることもあります。職員もたくさんアイディアを出して、利用者様と職員、共にたくさん笑い楽しく活動しています。今後も利用者様の好きなことを引き出し取り入れ、活動や外出支援に取り組んでいきたいと思えます。



カジマヤー祝賀会

名護厚生園 生活相談員



下門 龍貴

今年は6名の利用者がカジマヤーを迎えることが出来ました。

コロナによりご家族や地域の皆さまを招いた行事を開催するのが4年ぶりとなりました。玄関の飾り付けにも力を入れ、ご家族や地域の皆さまを迎え入れました。

金色の刺繍を施した赤い衣装を身に付けて風車などで飾られた車椅子に乗り祝賀会へ参加しました。「こんな立派な衣装を着けて恥ずかしいさ」と言われながらも笑顔が見られていました。

幕開けは職員によるかぎやでふり始まり、保育園児によるエイサーの披露、ご家族様による余興の上り口説と盛りだくさんのプログラムで祝賀会を盛り上げてくれました。園児を見つめる参加者のみなさんの頬がゆるみ自然と手拍子が始まりました。

祝賀会を観覧した利用者からも笑顔見られ「私もカジマヤー祝いで元気に過ごさないとね」と言われ中には涙を流しながら見学している利用者様もいました。

またこの日は行事食を用意し、おやつには色鮮やかなフルーツ盛りとケーキが準備され、いつもより食が進んでいるように感じました。カジマヤーとは、沖縄の言葉で「風車」を意味し童心に返ると言われています。

来年以降もたくさんご利用者がカジマヤー祝いを迎え童心に返り祝賀会を楽しんでいます。



施設だより

いろいろな行事に参加しました！

北嶺学園 介護員 義間 志穂

①24'ゆいフェスティバルIN沖縄

令和6年11月23日(日)、うるま市石川会館大ホールにて利用者10名の方が参加しました。昨年より、実践している「きよしのズンドコ節」・「ツバメ」を今回も更に練習を重ねて演奏しました。大太鼓・小太鼓・ウッドブロック・鳴子・タンバリンとそれぞれの楽器をベテラン利用者のリードの元、職員も一緒に楽しく皆で演奏する事が出来、大成功となりました。演奏後は緊張が解けたのか、ほっとした表情をしている利用者も多く見られました。また、今回は他施設の演奏も最後まで鑑賞する事が出来、両手を挙げて楽しそうに鑑賞する利用者も多く、有意義な時間を過ごす事が出来ました。



②第31回 ゆうあいスポーツ大会

令和6年10月5日(土)、晴れ晴れとした天候の中、沖縄県総合運動公園、陸上競技場にて利用者7名の方が2年ぶりに参加されました。熱中症対策も考慮しながら、アキュラシー競技(輪の中にフリスビーを投げる)へ全員参加し、フリスビーを投げる表情は必至で職員も一生懸命、応援しましたが惜しくも表彰台へ上がる方はいませんでした。残念がる利用者さまもいましたが、やりきった後の美味しいお弁当やおやつを召し上がると、皆、嬉しそうなお顔をしていました。



表彰受賞者紹介

長きにわたり福祉の向上に取り組み貢献したことが評価され、その功績へ当法人職員が表彰を受けました。今後とも、利用者本位のサービスの質の向上と経営基盤の強化を図るとともに、広く地域に貢献し、地域の人々に信頼され愛される施設（法人）を目指す一員として各々の役割を担って参ります。

第67回沖縄県社会福祉大会長表彰

《受賞者》

(25年以上勤務)

本部事務局 事務局長
いしみね救護園 園長
具志川厚生園 主任介護員

花城 裕康
野田 里子
又吉 篤志

《受賞者》

(15年以上勤務)

沖縄療育園 理学療法士
名護厚生園 管理栄養士
名護厚生園 介護支援専門員
名護厚生園 介護支援専門員
具志川厚生園 園長
具志川厚生園 介護課長
具志川厚生園 介護支援専門員
具志川厚生園 介護員
宮古厚生園 介護員
八重山厚生園 介護員
北嶺学園 職業指導員
漲水学園 事務員
都屋の里 理学療法士
都屋の里 介護員
よみたん救護園 介護員
いしみね救護園 看護師

水戸 周太
屋比久 道子
大嶺 希野
宮里 真樹
福地 政幸
新垣 美由紀
酒井 さわ子
友利 一雄
奥平 尚美
根間 俊太朗
金城 篤史
下里 亮
神里 義嗣
照屋 健司
新垣 久美子
儀保 幸次

第57回沖縄県身体障害者福祉大会長表彰

《受賞者》

(20年以上勤務)

沖縄療育園 介護員
上原 将弘
サード管理責任者
児童発達支援管理責任者 田場 貴子

(10年以上勤務)

沖縄療育園 看護師 兼城 洋子
沖縄療育園 言語聴覚士 仲里 沙織
沖縄療育園 看護師 大城 由起子
沖縄療育園 介護員 岸本 博樹



施設長リレーエッセイ

「あの頃の宮古島とともに」

いしみね救護園園長 野田里子



両親ともに宮古島出身で、私も小学校4年生まで宮古島で過ごしたこともあり、自身のルーツそして自分らしさであるアイデンティティは宮古島で育まれたという思いを持っています。私が生まれた年は、沖縄が本土復帰をして一年迎え、幼少期から両親が共働きでしたので、祖父母が私の保育園や幼稚園に毎日迎えに来てくれ、その後は祖父母の家で過ごしていました。

農家でもあった祖父母の家で過ごした時間は、今思えば自由で伸び伸びと自然の草花や生き物とともにありました。農道に咲くアカバナ（ハイビスカス）やブーゲンビリア、そして木の間に強力な網を張るオオジョロウグモがあちこちで蝶々や虫などを仕留めている景色が浮かんできます。片や家の中では、お屋後に二番座の窓ぎわで大の字になって寝転がり座布団をお腹に乗せながら、雲が風でゆっくりと流れていく空を一人眺めていました。

また、祖父母の家には魚やカニを売りに来る中年の女性がおり、台所の裏口で祖母がよく購入しているところに私も居合わせていました。値段の決め方が面白く、天秤秤（てんびんばかり）でザルに乗せた魚やカニの重さを量って値段の交渉をしていました。おもりを左右に動かしながらバランスを取る女性の仕草が珍しくて、私は観察していた覚えがあります。今思えば、食卓に獲れたばかりの魚やカニがふんだんにお皿に盛られ、特にカニの胴体をパカッと二つに割りながら味噌や身を吸って思う存分食べられるという、日常で食す食べ物幅がかなり広く心身ともに豊かだったなと思います。

両親の仕事の都合で宮古島を離れ、その後は沖縄本島で過ごしてきました。私も社会人になり結婚し子どもを育てている今現在、あの頃の宮古島の穏やかな風景を思い出すことが増え、子どもの頃、祖父母の家で伸び伸びと過ごした記憶が深く残っていることに気づきます。

私には十代半ばの息子がいますが、彼は思春期真っ只中にあり、親として子育ての難関に直面しているところです。これまでの私自身の価値観や乗り越えてきたやり方が息子の前で全く通用せず、反発を食らう日々。自分自身を見失うような感覚に一時陥りました。そんな時に思いを馳せるのが、あの頃の宮古島で過ごした時間。自分自身をゆっくり取り戻すことができます。仕事では施設運営の利点やリスクを先読みし、先手を打って対応策を考えていくことが管理職に求められる姿勢であったりしますが、子育てでは先読みして子どもに言い聞かせたり、誘導したり、何かを先取りさせてやらせることが、子どもに失敗し学ぶ機会を失わせ、取りまもりの心の成長に水を差すことになることを息子の反発で学びました。私も子どものころは、親にあれこれ言われることもなく、思う存分失敗もし、転びもしてきました。息子も成長していく中で、親の価値観を崩して自分の価値観を作り上げていく今はそんな時期なのだと考えるようになりました。

いつか子離れし、何かし自分の第二の人生を歩むことになったとき、また宮古島で生活することができればいいなと淡い夢を抱いています。海や空や風を身近に感じ、私にとって宮古島独特の人間関係の有難さや窮屈さを同時に抱えながら過ごすのも、また楽しいだろうと思います。



私達と一緒に働きませんか？

グループホームほくれい

「グループホームほくれい」は、那覇市内の団地内にあり、住み慣れた地域の中で自立にむけて生活している利用者6名の支援を行っています。日中は、就労支援事業所や病院デイケアに通い、日中活動がおわるとホームへ帰宅します。食事は、同じ団地内の世話人さんがホームへ通勤し、バランスのとれた美味しい食事を手作りで提供しています。利用者様にも喜ばれており、食べたいものを世話人さんと一緒に考えたり、利用者が配膳の準備を手伝ってくれたり、自宅のような雰囲気の中で生活を支援しています。



1日のスケジュール *サービス管理責任者*

- 8:30 出勤
- 9:00 各事業所全体申し送り
- 9:30 ホーム世話人との引継ぎ
- 10:00 日誌の確認、記録入力作業
- 11:00 買い物
- 12:00 休憩
- 13:00 利用者様病院受診等
- 15:00 利用者様支援経過記録
- 16:00 利用者様との面談等
- 16:50 ホーム世話人との引き継ぎ
- 17:15 帰宅

- *半年に1回、個別支援計画作成実施
- *利用者様のモニタリング・担当者会議参加



グループホームほくれい
サービス管理責任者
ひらかわ あき
平川 亜紀



特別養護老人ホーム・ 養護老人ホーム名護厚生園



ご利用者に、安心・安全・快適に生活して頂けるよう、職員一同笑顔を大切に努めています。

コロナも第5類になり、活動も少しずつですが出来るようになりました。利用者と共に行事を作り上げたり、おやつ作りをしたりと楽しんでいきます。

長年勤めている職員も多く、丁寧に指導しています。

介護員の 1日の業務スケジュール ～日勤～

- 8:30 出勤
朝食・移乗介助
- 9:00 排泄介助
- 10:00 入浴介助
- 12:00 昼食介助
口腔ケア
- 13:00 休憩
- 14:00 排泄介助
- 15:00 おやつ
- 16:00 余暇活動
- 17:00 記録
- 17:30 退勤



特別養護老人ホーム・
養護老人ホーム名護厚生園 介護員一同

施設入所・各種サービスのご相談について

当法人では、介護・障がい・医療・救護・児童・保育の分野を運営しています。ご高齢の方や障がいがある方、保育所の利用に関するご相談はこちらまで、お気軽にご連絡下さい。

高 齢		
名護厚生園 (名護市)	・特別養護老人ホーム ・養護老人ホーム ・短期入所・訪問介護 ・居宅介護支援事業所 ・地域包括支援センター	0980-52-3283
具志川厚生園 (うるま市)	・特別養護老人ホーム ・養護老人ホーム ・短期入所・訪問介護 ・居宅介護支援事業所 ・地域密着型通所介護	098-972-6677
宮古厚生園 (宮古島市)	・特別養護老人ホーム ・養護老人ホーム ・短期入所・訪問介護 ・居宅介護支援事業所 ・地域密着型通所介護	0980-72-2422
八重山厚生園 (石垣市)	・特別養護老人ホーム ・養護老人ホーム ・短期入所・訪問介護 ・居宅介護支援事業所	0980-82-2334
保 育 所		
にしのもり保育園 (石垣市)	毎月 20 日に園庭開放 を行っています。	0980-87-5145

障がい		
都屋の里 (読谷村)	・生活介護・施設入所 ・短期入所	098-956-1150
北嶺学園 (那覇市)	・日中一時支援 (北嶺のみ) ・生活介護・施設入所 ・短期入所	098-886-2126
あけぼの学園 (宮古島市)	・グループホーム ・就労継続支援 B 型 ・相談支援事業所	0980-72-1660

医 療		
沖縄療育園 (浦添市)	・医療型障害児入所施設 ・療養介護・短期入所 ・生活介護 ・児童発達支援事業所 ・日中一時支援	098-877-3478

救 護		
よみたん救護園 (読谷村)	身体・知的・精神の障害 や依存症などの生きづら さを抱えて、経済的な問 題も含め、日常生活を営 むことが困難な状態の要 保護者を入所させて、生 活扶助を行う施設です。 ※市町村等の措置権者か らの入所調整により入所 となります。	098-982-8900
いしみね救護園 (那覇市)		098-886-2136

沖縄県社会福祉事業団で働いてみませんか

募集職種	必要資格	募集施設	勤務形態
介護員	資格の有無不問 (※介護福祉士 あれば尚よし)	①具志川厚生園 ②名護厚生園 ③八重山厚生園 ④宮古厚生園 ⑤都屋の里 ⑥あけぼの学園 ⑦北嶺学園 ⑧よみたん救護園	基本： 三交代勤務。 勤務時間・ 勤務形態は 相談に応じます
看護師 准看護師	正看護師 准看護師	①沖縄療育園 ②北嶺学園 ③具志川厚生園 ④八重山厚生園	①三交代勤務 ②夜勤無しの 交代制勤務
生活相談員	・社会福祉主事及び 社会福祉士及び 精神保健福祉士	①八重山厚生園	日勤のみ
介護支援専門員	介護支援専門員 (有効期限内)	①具志川厚生園 ②名護厚生園	日勤のみ
生活支援員兼 サービス管理 責任者	・社会福祉主事及び 社会福祉士及び 精神保健福祉士 ・サービス管理責任者	①北嶺学園 (グループホーム ほくれい)	日勤のみ
介護員 (夜間専属職員)	資格の有無不問 (※介護福祉士 あれば尚よし)	①具志川厚生園 ②名護厚生園 ③宮古厚生園	夜間勤務のみ

入社のごきっかけは、「私が現在取得 (介護福祉士) している資格を活かせる職場で働きたい」と考えていたところ、知人の紹介で宮古厚生園に入職させて頂きました。

高齢者介護の経験は僅かながらありましたが、入職前は他職種で働いていたので、ブランクもあり不安でした。

実際、働き始めると、若い子からベテラン介護士の方々が手際よく支援している姿に圧倒される毎日です。

私自身もスキル向上を目指し利用者が笑顔でいられる生活のお手伝いが出来るよう頑張っています。

また、組織や福利厚生等も充実しているため、職員推薦紹介制度を活用し紹介させて頂きました。

くになか まいこ
宮古厚生園 国仲 麻衣子 (介護員)



私は、長年一般科の経験を経て 7 年間沖縄療育園で正規職員として勤務していました。

当時「全国重度心身障害者を守る親の会」に参加させて頂く機会がありました。

全国各地から参加されている障害を持つ家族の方から「どんなに重い障害があっても真剣に生きているこの今を守って下さい」という切実な親御さんの思いを託されました。私はその言葉を聞き、「はっ」とさせられました。自分のスキルを更に向上させることを目指し一旦沖縄療育園を退職しました。私が考える看護師としてあるべき姿とは思いやりを重視し、利用者にとって可能な限りより良い人生を送れるようにすることだと思います。

「働き方改革」をいち早く取り入れ、再び私を正規職員として、採用して頂きました。

これからもこの施設に貢献し利用者やスタッフにとってより良い環境をつくる努力をしていきたいと思っています。

たいら りみこ
沖縄療育園 平良 理美子 (看護師)



各事業所の詳細及び、求人の詳細については、QR コードからご確認ください